

# 建交労 ひかり

2018年11月号

発行：建交労 No.176

岐阜農林建設連合支部

〒501-4234

郡上市八幡町五町1-4-15

電話 0574-67-1582

すべての労災・職業病の根絶をめざす



三井金属本社前で「被害者の声を聞け!」と抗議する参加者

神岡じん肺訴訟の早期解決待ったなし

**東京・JR大崎駅前に  
三井金属は謝罪せよの声響く**

第29回なくせじん肺全国キャラバン集結行動

# 最高裁判決土台に早期解決めざす

## キャラバン集結で水本団長が決意表明

10月23日、24日、兼山書記長、山田闘争部長の20人が参加しました。23日は、冷たい雨が降り続くなか厚労省・環境省前での宣伝行動が行われ、神岡じん肺裁判の岡本弁護士がキャラバン出陣式のお礼と神岡裁判の現状を訴えました。このあと参加者は、

国会の議員会館で院内集会を行い、各ブロックキャラバン行動の報告や各闘争団が決意表明を行いました。神岡じん肺裁判の原告を代表して水本団長が「1陣最高裁判決を土台に2陣裁判を勝利し、1年以内の解決めざす。」と力強く語りました。なお、院内集会には与野党の国会議員17人が参加、じん肺救済法の早期成立を約束しました。



院内集会で訴える神岡原告団と家族会—国会議員会館



雨のなか厚労省前宣伝に参加した原告・支援する会



宣伝カーから訴える神岡じん肺弁護団の岡本弁護士

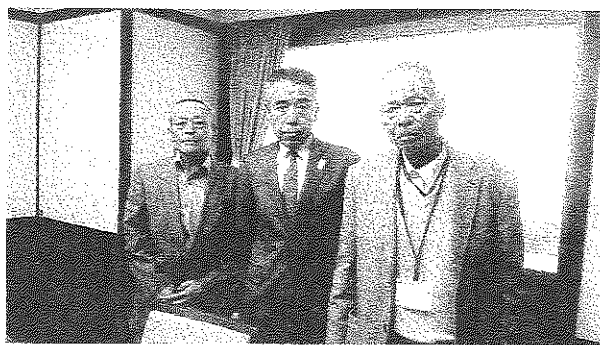
### 要請受けるが聞くだけ 逃げ回る三井金属本社

翌24日は、三井金属鉱業本社前での宣伝と本社要請を行いました。会社側は相変わらず代理人弁護士が出席し「みなさんの話を聞き会社伝える」との態度で同席していたじん肺弁護団

弁護士が「日鉄鉱業は裁判で負けようが原告が何人亡くなるうが関係ないと言っていたが三井金属も同じか」と迫りましたが会社側代理人はまともに答えず、逃げ回るだけでした。この日の要請に参加した家族会の本きみ子さんも「最高裁判決があるのになぜ会社は謝らないのか、誠実に対応してほしい。」と家族のくやしさを訴えました。

## 高山市と神岡原告が面談 会社への働きかけと 被災者支援を約束

なくせじん肺全国キャラバンで全国の仲間が高山市に対し神岡じん肺訴訟の早期解決を要請しました。その結果、さっそく高山市側から直接被災者の声を聞きたいとの申し出があり、10月22日西倉副市長との



西倉副市長（中）に要請する水本団長（左）と川上副団長  
「地域発展の裏にみなさんの犠牲がある」の言葉が印象的だ

懇談が実現しました。原告団から高山市在住の水本団長と川上副団長、川津弁護士、兼山書記長が参加しました。原告のお二人から「原告の多くは高山市・飛騨市の住民であり、提訴後すでに13人が亡くなって

## 岐阜農林の「ひかり」 審査員特別賞を獲得

岐阜農林の機関紙「ひかり」が建交労2018年機関紙・誌コンクールで見事「審査員特別賞」を獲得しました。審査員からは「しっかりと企画が練られ、総合的に完成度が高い紙面です。『みて・みて・聞いて』では組合員が登場、編集後記も読ませます。」と評価されました。これも組合員のみなさんのご協力があつて

おり、解決のため尽力してほしい。」と訴えました。副市長は「地域発展の裏にみなさんの犠牲があり、お悔やみとお見舞いを申し上げます。行政として企業への要請や被災者支援を検討する。」と約束しました。

のことであり、心から感謝しています。今後とも編集委員一同、仲間の活動や声を読者のみなさんに届けるようがんばります。



## 療養モラル4基準

- ①不正請求を絶対しない。  
事実と法令の定めにしたがって請求する。
- ②療養妨害をしない。  
社会復帰の努力をおこなう。
- ③主治医の指導のもとに社会復帰計画を立てる。

## 10月の活動報告

- 4日 第11回執行委員会：郡上市組合事務所
- 5日 亀井さん行政訴訟（遺族補償）打ち合わせ：豊橋市
- 10日 三井金属神岡鉱山じん肺訴訟原告団会議：飛騨市
- 12日 神岡鉱山じん肺闘争本部会議：郡上市組合事務所  
三井金属神岡鉱山じん肺訴訟弁護団会議：岐阜合同
- 18日 第12回執行委員会：郡上市組合事務所
- 19日 光陽病院振動病認定の報告：福井市
- 22日 高山市副市長面談（神岡じん肺裁判）：高山市
- 23～24日 なくせじん肺全国キャラバン集結集会：東京
- 28日 建交労岐阜県本部第19回定期大会：岐阜市
- 29日 トンネルじん肺根絶第6陣訴訟打ち合わせ：岐阜合同
- 30日 労災認定新規検査（難聴）：藤垣クリニック
- 31日 神岡じん肺訴訟第2陣口頭弁論：岐阜地裁

## 11月の予定

- 1日 岐阜農林建設連合支部第19回定期大会：郡上市
- 5～6日 トンネルじん肺根絶第6陣訴訟意思統一会議：東京
- 7日 トンネルじん肺根絶第6陣訴訟打ち合わせ：岐阜合同
- 9日 三井金属神岡鉱山じん肺訴訟原告団会議：飛騨市
- 15日 じん肺新規認定の診断書依頼：郡上市白鳥病院
- 27日 三井金属神岡鉱山じん肺訴訟弁護団会議：岐阜合同
- 期日未定 飛騨市との面談（神岡じん肺裁判）：高山市
- 期日未定 東濃3市健康相談会の打ち合わせ

### 編集後記

温暖で日照時間の長い九州は太陽光発電に適した地域と言われている。福島原発事故をきっかけに太陽光発電事業が急速に伸び、6年前に111万kWだった発電量が今年7月には803万kWにまで拡大した。九州全域の春や秋の電力需要は900万kWであり、太陽光や風力など自然エネルギーのさらなる活用が期待されている。ところが九州電力は、原発事故など他人事とばかりに管内4基の原発（414万kW）を再稼働させるために、再生可能エネルギーを抑制するという本末転倒を強行。そんなアホな。こんな日本にだれがした。責任者出てこい！

（編集委員 山田）